

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	025 -	事業名	商工振興事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
------	-------	-----	--------	------	---------------

基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ リリモでにぎわい交流するまち	会計区分	一般会計	
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	予算区分(款 - 項 - 目)		
	第6次総合計画・基本目標	✓ 「やってみたい」でつながるまち	6-1-1 商工費		
	法定受託事務の有無	-			
	その他(関係計画、要綱等)	✓	長久手市商工業振興事業補助金交付要綱、小規模企業等振興資金融資制度要綱、長久手市信用保証料補給制度要綱		
事業開始の背景、経緯等	市内中小企業が円滑に業を営めるよう、事業に対する補助や支援などを行う必要がある。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 個性的で魅力のある商業の振興を行う。			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内の中小企業者			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 地域経済の活性化を目指す			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 商工事務事業	拡充	④	
	② 小規模企業等振興事業	拡充	⑤		
	③ 信用保証料補助事業	拡充	⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	予算	92,577	69,666	69,746	71,655	73,686
			決算	91,939	69,697	70,441	69,630	
	人件費(B)	千円	決算	8,325	5,652	5,960	6,756	
総コスト(A)+(B)	千円	決算	100,264	75,349	76,401	76,386		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 商工会会員数	人	目標	820	830	810	810	810
			実績	820	806	806	803	
	B 銀行への預託金額	千円	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
			実績	50,000	50,000	50,000	50,000	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 事業所が増えることにより地域での商工業が活性化されるため、商工会に登録している会員数を指標とする。								
B 銀行へ市から預託を行うことにより銀行が市内中小企業者へ融資しやすくし、市内事業所の支援ができるため、預託金額を指標とする。								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市、尾張旭市、東郷町、日進市など周辺市町村も同様の制度を設けている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 商工会の会員数は伸びなかったが、商工会始め市内の中小企業に対し補助金や預託金などで補助を行うことで、商工業を支援し、商業の活性化を行うことができた。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 継続して商工会への補助を行いつつ、市の預託金や補給金等も行い、市内中小企業に対し支援している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 中小企業への支援のため、金融機関への積極的なアピールが必要。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 商工会始め、市内の中小企業に対し補助を行うことで、商工業の支援を行うため、積極的なPRを行いながら事業を継続する。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市内中小企業に対し、健全な事業を行い市内商工業を活性化していくため、継続して支援を行っていく。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	商工振興事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	①	商工事務事業	予算区分	6-1-1 商工費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和60年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内の商工会を支援するため、補助金を交付する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 地元中小企業の活性化

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	38,277	15,723	15,803	17,628	18,582
		決算	38,183	15,519	15,337	16,326	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		商工会補助金				15,004	千円
(2)		商工会館用地借地料				637	千円
(3)		住民起業支援塾運営委託				580	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
商工会補助金	千円	見込	19,000	14,000	14,000	15,500	14,000
		実績	14,000	14,000	14,000	15,005	
経営指導員による指導	回	見込	1,800	1,600	1,200	1,200	1,300
		実績	1,484	1,152	1,105	1,272	
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> 地元商工会への補助金交付 地域の問題解決のための起業者を掘り起こすため、起業支援塾を開講する。 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

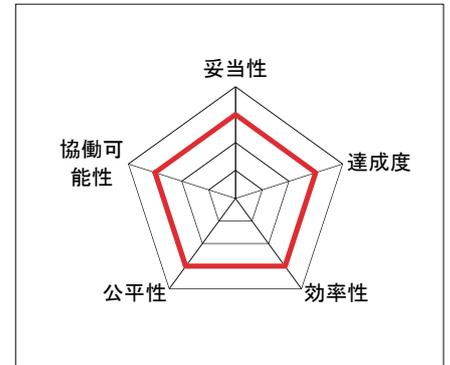
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年度より商工会主催による納涼まつりを中止した。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
17,628 千円	18,582 千円	954 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	拡充	
・前年度【コメント】	商工会が市内中小企業に対し活性化の手助けをしているため、今後も引き続き事業内容を検討しながら、補助金の増額を含め、活動を補助していく。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
補助金を有効活用し、商工会の経営指導員が伴走型支援に力を入れてより内容を充実させた相談を行い、市内中小企業の経営・技術の改善発達を手助けした。また、老朽化した商工会館の耐震診断を行った。		

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	-	-	-	-
実績	-	-	-	-
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
商工会への補助のみ対象のため。また、起業に特化した業者への委託が必要なため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
市内中小企業者への支援を行う商工会へ補助することで、市内企業の健全な経営を支援出来た。商工会への補助金額割合が他市町村より低く、商工会の財政が逼迫してきているため、増額を検討する必要がある。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
商工会が市内中小企業に対し活性化の手助けをしているため、今後も引き続き事業内容を検討しながら、補助金の増額を含め、活動を補助していく。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	商工振興事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	②	小規模企業等振興事業	予算区分	6-1-1 商工費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和61年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 年間を通して随時融資の受付を行うため、市内及び周辺の金融機関と覚書を締結し、預託金制度を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市内の中小企業者の資金の融通を円滑にする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	50,000 50,000	50,000 50,000	50,000 50,000	50,000 50,000	50,000
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)		小規模企業等振興資金貸付預託金				50,000	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
融資件数	件	見込	50	50	50	40	40
		実績	33	35	38	38	
融資金額	千円	見込	360,000	360,000	300,000	300,000	300,000
		実績	117,556	123,700	127,200	210,600	
<備考：活動の概要（30年度(2018)）>							
・市内及び近隣金融機関9行13支店に対し、小規模企業等振興資金の貸付として預託を行う。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

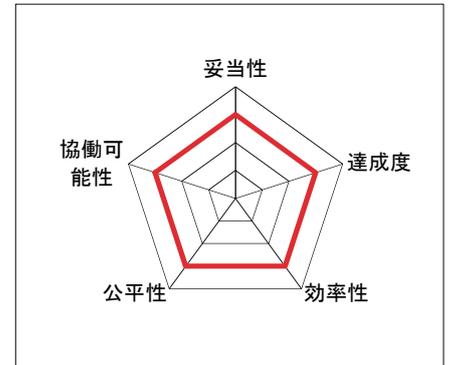
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成29年度から、小規模企業等振興資金などの利率が引き下げられ、より融資を受けやすくなった。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
50,000 千円 50,000 千円 0 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
市内中小企業者からの需要もあり、金融機関が中小企業に対し資金の融通をしやすくするための制度であるため、今後も引き続き行い、融資を拡大していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
金融機関ごとの実績に応じ、預託金額の見直しを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数 (人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	-	-	-	-
実績	-	-	-	-
(2) 協働の状況 (30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市内外の特定の金融機関が対象のため。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
制度要綱に基づき、遅滞なく手続を進めた。融資を積極的に行う金融機関と、融資が難しい金融機関とがあり、各金融機関間での預託金額の変更などを行っている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市内中小企業者からの需要もあり、金融機関が中小企業に対し資金の融通をしやすくするための制度であるため、今後も引き続き行い、融資を拡大していく。また、近年市内金融機関が増加しているため、預託金の増額も検討の必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	商工振興事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	③	信用保証料補助事業	予算区分	6-1-1 商工費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成6年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 中小企業が融資を受けた際に支払う信用保証料の補助を随時受け付ける。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市内の中小企業者の負担を軽減する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	4,300	3,943	3,943	4,387	5,104
		決算	3,756	4,178	5,104	3,304	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		信用保証料補助金				3,304	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
件数	件	見込	70	70	70	70	60
		実績	55	67	65	53	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
・小規模資金の融資を受けた中小企業に、年1回最大15万円までの信用保証料補助を行う。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

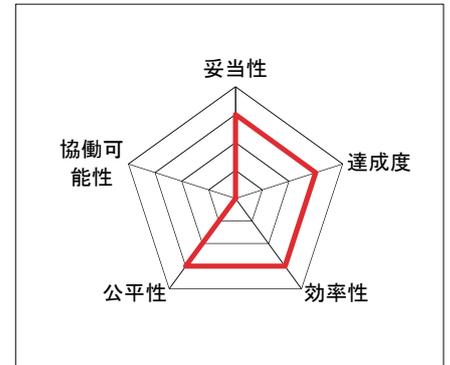
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 融資を希望する企業が徐々に増えており、信用保証料制度の活用件数も増加している。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
4,387 千円 5,104 千円 717 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】 信用保証料補助を利用して中小企業が融資を受けやすくすることにより、中小企業の倒産や流出を防ぐ。近年、1件あたりの補助金額が増額しているため、今後の予算額増額も視野に入れ、引き続き更なるPRを行うなどして事業を実施していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか) 金融機関からの補給金申請は減少したが、チラシ等による制度PR等を行い、融資を受けやすい体制づくりをした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況(30年度(2018)) (協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 市が行う補助金の為。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 金融機関へのPRはできているが、融資を希望する中小企業への制度のPRが不足しているため、チラシなどを作成して金融機関が企業への融資をする際に活用できるようにする必要がある。
--

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) 信用保証料補助を利用して中小企業が融資を受けやすくすることにより、中小企業の倒産や流出を防ぐ。近年、1件あたりの補助金額が増額しているため、引き続き更なるPRを行うなどして事業を実施していく。
--

7. 今後の方向性

拡充